

## 1-4 葬儀などの手配をする

臨終からの一般的な流れを把握しておきましょう。なお、地域によっては、異なる場合があります。

### 臨終

医師が死亡を確認したら、**末期の水**を取ります。最近ではあまり見られなくなりましたが、これは、仏教に由来する故人の唇に水を含んだ脱脂綿を当てる儀式で、「死に水を取る」ともいいます。配偶者（妻や夫）・子・両親・兄弟姉妹・友人と、故人との関係が深い順に行います。

### 遺体搬送の手続き

病院で亡くなった場合は、自宅などに遺体を搬送する手続きをします。葬儀を依頼する**葬儀社**に**お願いする**のが一般的ですが、提携する業者を病院から紹介してもらうこともできます。なお、遺体搬送には医師から「死亡診断書（死体検案書）」を交付してもらう必要があります（1-1 参照）。

### 近親者への連絡・葬儀などの打ち合わせ

自宅などに遺体を安置したら、近親者へ連絡を入れます。同時に、葬儀社と**通夜や葬儀・告別式**についての**打ち合わせ**を行います。喪主と世話役、式の概要が決まったら、勤務先や関係者、近隣の方に連絡します。

### 通夜

通夜は、遺族・親類縁者、故人と特に関係が深かった人のみが集まって、故人との最後の夜を過ごすものです。以前は朝まで行われていましたが、今は日が変わる前までには終わる**半通夜**が一般的です。最近では、通夜を行わない一日葬も増えています。

### 葬儀・告別式

通夜の翌日に、葬儀ならびに告別式が行われます。故人を丁重に弔い、**最後のお別れ**をします。宗旨や宗派によって形式の違いがありますが、僧侶による**読経**、**焼香**、**弔辞**、**弔電**、**献花**という流れで進められます。  
柩のふたを閉める前に故人の愛用品を入れますが、最近では骨箱に入れるケースも増えてきました。

### 出棺・火葬・骨上げ

柩は、遺族や親族の男性数人で運びます。頭を先にして、霊柩車に乗せるまで同じ向きのまま進みます。喪主から会葬者へのあいさつが終わると、車に乗り込み、火葬場へ向かいます。約1～2時間ほどで火葬が終わると、骨上げを行い、骨を骨壺に納めます。

### 初七日

初七日は亡くなった日を含め7日以内に行う法要で、故人が無事三途の川を渡り終えることを祈ります。最近では葬儀の後に併せて行うこともあります。

### 四十九日・納骨

7回目の七日の法要が四十九日で、故人の来世が良いものであることを祈ります。納骨の時期に特に期限はありませんが、多くの場合は四十九日の法要と併せて行われます。

### ポイント!



（一財）日本消費者協会のデータによると、葬儀にかかる費用の総額は約196万円で、これに別途香典返しなどの費用がかかります。葬儀費用は遺産総額から差し引くことができるので、ささいなものでもメモしておきましょう。また、葬儀や埋葬にかかった費用の一部を補助してくれる制度があります。詳しくは**5-1・5-2**をご覧ください。

すぐに行うこと

14日以内に行うこと

落ち着いたら行うこと

相続に関する手続き

こんな時には？